



## 資料収集

# 羅臼で座礁のシャチ メス1体を譲り受け

2月7日、知床半島東側の羅臼町相泊の海岸で、シャチの群が流氷にとじ込められているのが見つかりました。地元の人たちが救出活動にあたりましたが、一頭が沖に脱出した以外は、残念ながら全部死んでしまいました。

羅臼町は、遺体を学術的に研究・保存することとし、国立科学博物館の動物研究室を中心とする調査チームが結成されました。14日から16日まで羅臼町の堆肥処理場で解剖・試料採取がおこなわれ、足寄からも博物館館長が参加しました。

足寄博物館では今の北海道の海にいるクジラの骨格6体を展示しており、前々からシャチの骨格を追加したいと考えていました。調査チームや羅臼町との理解が得られ、メス1体を骨格標本の資料として譲り受けることができました。

資料は、火山灰に埋め、2～3年後に公開することになります。



唯一のオスの遺体が処理場に到着。トレーラーからはみ出す巨体

# ベヘモトプス25周年

## ベヘモトプスとアショロアのちがい

博物館展示室には、足寄でみつかった原始束柱類としてふたつの骨格が展示されています。下の写真で、左がベヘモトプス（1980年発見）、右がアショロア（1976年発見）です。



ベヘモトプスは体長293 c m、体高105 c m、推定体重1979 k gと大型です。歯はほとんどすり減っていないので若い成獣です。

アショロアは小さく、体長175 c m、体高65 c m、推定体重344 k g。臼歯がかなりすり減っているため高齡のおとなです。

身体の大さのちがいは、年齢によるものではなく、動物の種類がちがうからだと考えています。

### 足寄の原始的な束柱類ふたつは 歯がちがう

デスマスチルスの歯は、ヒトの小指くらいの大きさの円柱が集まった構造をしています。

それに対して、二つの原始束柱類は、円柱の代わりに、丸みをもったコブが並んだ構造をもっています。進化の過程で、コブが伸びて高さを増し、円柱状に変化したと考えています。コブが並んだ臼歯は、ほかの原始的な哺乳類にも似ており、デスマスチルス類の祖先を探る手がかりとして注目されます。

二つ動物の歯のちがいはなにか？

下の写真は、ベヘモトプスとアショロアの上顎の第3大臼歯を比べたものです。かみ合う面を見ています。アショロアの歯はすり減っていますが、コブが並んだ形は読みとれると思います。



では、どこがちがうか。コブのつけねのところに、ベヘモトプスでは、歯を取り巻く帯のようなデッパリが見えます（矢印）。その形から、「歯帯」と呼ばれます。アショロアには歯帯がありません。

この特徴は子孫にも引き継がれ、アショロアはデスマスチルスの祖先、ベヘモトプスはパレオパラドキシアの祖先とする根拠になっています。

体験レプリカをつくるとよくわかりますよ。

## 休館日 || 3月1日、8日、15日、22日、29日

博物館の動き 1月・2月（館の行事や職員の動き、来館団体の一部、など）

2月

3月

2日 北海道青年の家等連絡協議会運営協議会で講演（ネイパルあしよろ）

3～9日 犬塚則久博士来館

アショロアの研究のため

13～15日 シャチの解剖・資料受け取りのため 羅臼出張（澤村）

19日 白糠町青年部のみなさん

26日 帯広YMCAスプリングスクールのみなさん

26日 別海町中央公民館事業のみなさん